

令和3年度第1回社会教育委員会議 会議摘録

開催日時：令和3年6月2日（水）午後1時30分～午後3時10分

開催場所：精華町役場6階審議会室

出席委員

高鍋房美委員長・村上栄副委員長・田中智美委員・上村卓三委員・尾崎麻由美委員・堀口紀代美委員・播磨富士子委員

出席事務局職員

教育長：川村 智、教育部長：浦本佳行、生涯学習課長：田原孝一、課長補佐：島川宗久

傍聴者：無し

内容

- 1 開会 田原生涯学習課長
- 2 あいさつ

○高鍋委員長

皆様、こんにちは。コロナ禍の中、ご理解の上ご出席いただきました皆様に感謝いたします。私は、普通の主婦の声がいろいろなところに届けることができればという思いを持って社会教育委員を務めさせていただいております。今の我が家の話ですが、このコロナ禍の中、独り暮らしの母を引き取り、今、一人娘を連れて里帰り出産の娘と合計9人の家族で生活しています。そういう生活の中で高齢者の問題、育児に関する問題が身近なところで見ることができたと思います。

秋葉原の連続殺人事件が私の心に残っているのですが、誰かに止めてほしかったという犯人の言葉がすごく私の心に突き刺さりました。高齢者の独り暮らしや育児の場面で、また、いろいろな事件や事故をニュースで見て、誰か一人でも横に寄り添う人がいればと思います。そういったことが学校教育ではなくて生涯学習で、心を和ませるという人をなくさないで増やしていくことが社会教育委員の務めの一つではないかと思うようになりました。いろいろな思いがあつて皆さん、参加されていると思いますが、いろんなことを言葉に出していろいろ伝えていくということを大切にしていければと思います。

3 議事

(1) 各種委員の選任について

①精華町民生委員推薦会委員、②精華町教育委員会所管施設指定管理者評価委員会委員、③精華町子ども祭り実行委員会委員、④精華町子どもの読書環境づくり推進協議会について、職務内容を事務局から説明

①は、田中智美委員、②は、上村卓三委員、③は、尾崎麻由美委員、④は、播磨富士子委員が選任された。

また、令和2年度から現在就任いただいている各種委員について再確認した。

(2) 令和3年度社会教育委員会議の取組について

まず、参考としてコロナ禍における社会教育に関する町の各種事業の実施状況について資料により事務局から説明し、特に高齢者に対してコロナ禍における社会教育が果たす役割や取組などについて、議論をいただく。

○村上副委員長

高齢者に関する話題ですが、やはり高齢というコロナへの配慮で、勤務している和束町でも老人クラブも一切活動してない現状です。笠置町さわやか会、南山城村の老人大学というのがあるのですが、やはり一切講座も含めて社会見学等もできていない。明るい兆しとしてはコロナの予防接種が高齢者に7月までには希望者全員接種される予定ですので、それ以降に老人会等の組織と一緒に何か計画できればと思います。

○田中委員

私もまだコロナワクチンを接種してませんので、やはり人前に出ることは控えめにしようという気持ちです。先ほど別の会合でも話題にあったのですが、地域の方たちとの地域力が芽生えてきたのに、コロナ禍でとても希薄になっている現状があり、とても残念に思いますが、地域での高齢者の問題として、まずやはり高齢者の個人情報問題の一つあります。社会福祉協議会からその状況について、説明を受けてもいいのではとも思います。学校運営協議会のほうでも高齢者と子どもたちとの交流をどのように推進していこうかといういろいろ考えております。いろいろな情報や参考資料を集めて報告いただき、社会教育委員で理解を深めながらこの問題を考えていかなければいけないと思います。

○上村委員

高齢者への社会的な支援が今こそ必要ではないかと、痛切に実感しております。私は、祝園地域の老人会の会長をさせていただいておりますが、入会者は減り、施設入所やお亡くなりになったりで退会者が増えてまして、老人会の組織そのものが崩壊の危機にあります。皆さん楽しみに参加いただくバスでの外出も昨年ではできませんでした。慰霊祭など行事を運営するのも大変です。老人会は、いわゆる人生の終の組織なのですが、これこそなくしたらその方が地域に存在していたという、いのちの痕跡がなくなってくるように思えるのです。特に今、災害の問題があり、独居老人の避難にしても地域のつながりがなかったら助かる命も助けられない。コロナ禍の今こそ老人会をもっと活性化する術はないのかと日々考えております。

新型コロナウイルスというのはものすごく現実の社会、世界を急激に大きく変化させ、人とのつながりが分断されているようです。葬儀にも参列できません。精神的なつながりを維持するために大切なお墓にしても、墓終いが急速に今進んでおります。

コロナ禍により軋轢、ストレスやうつ病、そういう状態が蔓延している今こそ、心の中の道徳性を育むことがますます大事であると思います。

今はスマートフォンをはじめとする便利な情報ツールがあります。高齢者であるがゆえに、これを活用しない手はないと思います。

現在、Z o o mで会合をやってみたり、講演会もインターネットを活用しております。行政でもより一層インターネットを活用いただき、心の交流、絆を深めていただきたいと強く希望します。

○尾崎委員

去年1年は巣籠もり状態で、皆さんにお会いすることも久しぶりですが、内心、コロナ感染症により不安な気持ちもあり、皆様も感じておられると思います。このようにコロナ対策をすれば大丈夫なんだと実感しながら皆様と意見を交わすことができ、本当に良かったと思いますし、インターネットという便利なツールも活用していきながら、立ち止まるのではなく、様々な活動を少しずつでも進めていければと思います。

○播磨委員

母が独り暮らししてござりまして、コロナワクチン予防接種の予約が始まりましたが、インターネット申込みが高齢者にとってはとても難しいことです。家族にも迷惑をかけたくないという気持ちがあると思います。行政は、インターネットで簡単にできるものとしているが、高齢者の生活感覚とは違うところでやっているなというのをすごく感じました。コロナ禍になってから本当に死というものが近くに感じて不安が大きくなっています。介護保険サービスでも行政が手厚く見守っていただければ本当に安心であると親を見て感じています。

地域の民生委員の方とか近所の方が、独り暮らしの方を見回るような仕組みなど充実すると良いと思います。

○堀口委員

コロナ禍でやはり高齢の方が活動できない、出掛ける場所がないと老人会の方にご相談を受けます。これまでは集会所で地域サロンなどの活動をしていたのが、今は怖くてできないとか、人数制限をしないといけないと困っておられて、何かお手伝いできることを考えているところです。

また、乳児のお母さん方がどうしても家にこもりがちになられます。子どもサロンにも今は集まれないのでストレスを溜めておられると相談されています。行政でもいろいろ取組はされているようですが、コロナ禍で中止になっているものもあるようで

す。特に地域とのなじみのないお母さん方はすごく困っていらっしゃるようですので何か手助けできればと考えています。

○田中委員

子育て支援のことですが、私たち精華町子育て支援地域連絡協議会というのを作っております。やはり一番心配しているのは、子育て中のお母さん、お父さんの孤立です。交流や相談の場づくりをコロナ禍の中でも何とか実施している事業もありますので、子育て支援センターなど行政の窓口にお問合せいただけたら良いかなと思います。

高齢者にインターネット操作を求めるのはなかなか難しいと確かにそう思います。もう少し親切な情報を発信するのが行政の取り組むべきことだと思います。

高齢者に関する問題といっても広範囲ですので、行政の各所管でいろんな情報を把握しながら、問題提起をして課題整理していく必要があります。

○高鍋委員長

以前に学校で、地域の独り暮らしの高齢者に手紙を贈るという取組みがありました。何かつながりができればと思います。

若いお母さんの孤立ですが、近所を歩いていた若いお母さんとLINE交換してつながることができました。実家も遠く、友達もまだできていないということで、子育てについての心配事をLINEで相談してくれます。お母さん方もネットなど情報が多すぎてかえって窮屈になっているように感じました。おせっかいの気持ちで若いお母さんんに声掛けをしてつながりができたので、そういったことでも助けになっていると思いますし、町の子育て支援の情報も伝えてあげることができます。いつでも相談できるような場所がほしいですね。

○堀口委員

桜が丘の方でも若いお母さん方がいろいろなツールを使って相談しあったりされていると思いますが、やはり集まる場所やグループができたらもっと皆さん安心されると思います。

保育所を開放したりされてますが、子どもの手が離れない時間帯もあるので行きやすいと思う場所になっているのかや、行政に電話でもなかなか聞きづらいと思われる方もいらっしゃるようです。

○田中委員

行政の子育て支援課や、子育て支援センターの担当者にこういった声を届けていただきますと、各地域での子どものサロン活動もありますので、いろんな声を集約して行政の方と検討していけるとと思います。

やはり若い方がいつでも集まってお話できる場づくりをしたいですね。その間は私たち担当で子どもさんを見てあげるといったようなことができると思います。

高齢者独り暮らしの方を見守る取組みとしては、社会福祉協議会でも取り組んでおられますし、社会教育委員としても、全体的課題を把握して、何か提案できれば良いと思います。

○高鍋委員長

ありがとうございました。高齢の方も何か生きがいを見つけられるような取組も考えていただけたらと思います。

○田中委員

最近、ヤングケアラーという言葉がよく出てきてますが、関わっている本人が言わないとなかなか実態を把握しづらいとも聞いてますので、学校関係者とも連絡しながら、やはり実態の把握に努めなければならないと思います。

○田原生涯学習課長

コロナ禍における高齢者、子育て世代の問題について、福祉、子育て、また、健康管理と色々な部署と連携をとりながら進めていければと思います。せいか365という、精華町の健康づくり運動という取組があります。高齢者の健康維持という面で、寿大学を活用していくなど考えていきたいと思います。

ヤングケアラーの課題等についても機会を得てまた報告できればと思います。

4 報告

(1) 令和3年度社会教育指導の重点について

(2) 令和3年度社会教育委員の関係事業について

事務局から資料を配布した。今後の京都府主催の社会教育委員関係行事等について、案内、出欠確認等を行った。

5 その他

今回の社会教育委員の会議日程の調整を行い、10月1日金曜日の午後1時30分から行うこととした。

6 閉会あいさつ

○村上副委員長

緊急事態宣言の発令中にもかかわらず、ご出席いただきましてありがとうございました。今日は本当に熱心な討議、情報交流がされたと思います。社会教育委員会議でしっかり交流して、それをまたそれぞれの御立場、活動されている場所に持ち帰ってそこでまた広めていくというのがこの会議の一つの役割ではないかと思います。

Z o o mやL I N Eといったオンラインの活用も、高齢者の方にもっと身近に感じてもらえるような取組もできれば思っております。

私も子育て中の娘とL I N Eでの動画でやり取りすることがあります。0歳児を一人で面倒見るのに苦労しているようですが、職場の配慮もありなんとか過ごしているよ

うで、やはり周りの支えが本当に必要であると思いますし、そういう支えができる仕組みづくりを、またこの会議でも交流して広めることができればと思っています。今日はありがとうございました。

○川村教育長

ヤングケアラーの問題ですが、まだ自己が確立してない年代の子どもたちにとっては、なぜ自分だけがこうなのかということで非常に心が厳しい状態に追い込まれるのではないかという懸念もあります。実態をどう把握するかについて、的確な良い方法がないか議論する必要があると思っています。高齢者問題は、身内の介護の問題がございまして、高齢者も世代世代でなじんできたものというのがあって、スマートフォンやデジタル機器を使おうとしてもタッチパネルになかなかなじめないですし、この先だんだんできなくなることが多くなっていきますし、悩ましいことであると身近で感じております。

学校の様子ですが、コロナ禍も2年目に入り、いろんな行事ができないというのが2年連続となりますとその指導方法やノウハウなどを引き継いでいけるのかと非常に懸念されます。形を変えながらもできるものはなるべく実施するということを基本スタンスにして、教育委員会としても感染対策を取りながら進めていきたいと思っています。皆様にも引き続きご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。